

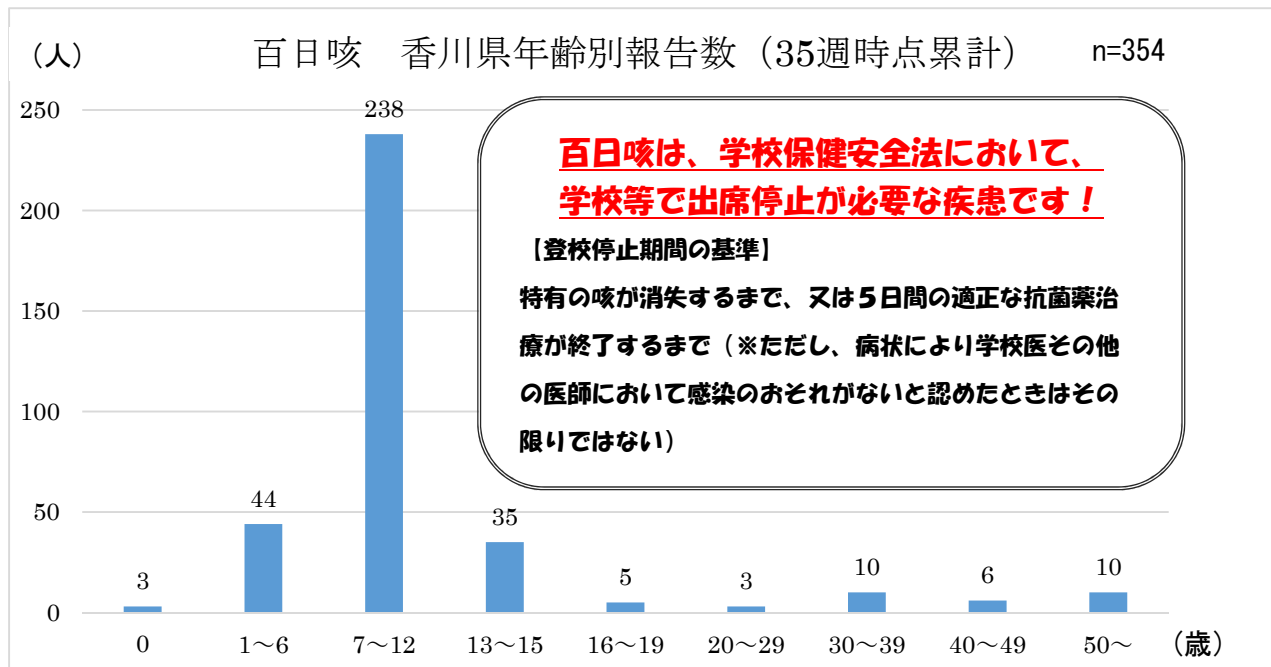
# 百日咳に気をつけましょう！

H30.9

**百日咳は、主に百日咳菌による感染症です。**

2018年1月から百日咳を診断した医師は、7日以内に最寄りの保健所に届け出ることが義務づけられました。本県において、平成30年1週から35週（9月2日時点）までに354件の報告があり、全国と比較して多い状況にあります。

**新生児や乳児の場合は、重症化しやすく死に至る危険の高い感染症のため注意が必要です。**



## ●感染経路

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる菌により感染します。（飛沫感染、接触感染）

## ●症状

7～10日程度の潜伏期間の後、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなってきます。次第に、短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のようなヒューという音がでるようになり、この様な咳症状が数週間程度続きます。激しい咳は、徐々におさまり、数か月程で回復します。

**乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあります。**また、成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。

## ●治療

抗菌薬を使用します。

### ★予防について★

- 有効な予防法は予防接種です。予防接種法に基づく定期予防接種が行われています。詳しくは、市町の保健センターにお問い合わせください。
- 飛沫感染、接触感染の予防には、手洗い、咳エチケット（※）を心掛けましょう。**重症化しやすい予防接種前の新生児や乳児は、主に両親や兄弟など身近な人が感染源であることが多いため、家庭内での感染防止対策が重要です。**
- 咳症状が長引く場合は、**早めに医療機関を受診しましょう。**

（※）咳エチケット・・・咳やくしゃみをするときは、他の人から顔をそむけ、ティッシュなどで口や鼻を覆う。また、咳やくしゃみが出ている間はマスクを着用する。